

ロータリー財団

目次

ロータリー財団とは	2
ロータリー財団の父	2
財団の発展	5
ロータリー財団のプログラム	8
人道的プログラム	8
マッチング・グラント	8
個人向け補助金	11
地区補助金	11
保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム	13
教育的プログラム	13
国際親善奨学金	13
世界平和奨学金	14
研究グループ交換	16
大学教員のための補助金	17
ポリオ・プラス・プログラム	17
ポリオ・プラス・パートナー	19
寄付	19
年次寄付	19
使途指定寄付	21
恒久基金寄付	21
遺贈友の会	21
大口寄付	22
認証ポイント	22
財団の友	23
Every Rotarian, Every Year	23
シェア・システム	24
ロータリー財団への寄付金の行方	24
ロータリー財団の管理運営	26
ロータリー財団組織	26
ロータリー財団の使命	27
特定非営利活動法人　ロータリー日本財団	28

ロータリー財団とは

ロータリー財団の正式名称は、国際ロータリーのロータリー財団です。国際ロータリーとロータリー財団に違いがあるのでしょうか。ロータリーの奉仕の理想を信奉する点では国際ロータリーもロータリー財団も一体のものです。

奉仕の理想について、RI の公式文献で定義している例はあまりないのですが、公式名簿 (Official Directory) の裏表紙には、「ロータリー・クラブは、場所を問わず一つの基本的理想を持っている。それは奉仕の理想で、他の人々を思いやり、他の人々の役に立つことである」と書かれています。

新刊の『奉仕の一世紀、国際ロータリー物語』では、1987 - 88 年度国際ロータリー会長のチャールズ・ケラー氏がこう言っています。

『奉仕の理想は人々をつなぐ真の絆です。奉仕とは、単によいことをするだけでなく、人々の役に立つことです。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる衣服を着て、異なる宗教を信奉しています。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要です。ロータリーでは、その絆が超我の奉仕と言う理想なのです』。

他の人々の役に立つ具体的活動をしているのがロータリー財団です。まず、ロータリー財団の創設から現在までを振り返ってみます。

ロータリー財団の父

ロータリー財団の父と呼ばれるのは6人目のRI会長、アーチ・クランフです。1917年に、当時の会長アーチ・クランフが米国ジョージア州アトランタの国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他、社会奉仕の分野で、何かよいことをしようではないか」と提案しました。数カ月後に、この新しく誕生した基金は米国ミズーリ州カンザス・シティーRCから米貨26ドル50セントの最初の寄付金を受け取りました。当初、これは、クランフ会長への記念品の購入資金でした。しかし、ミズーリの人たちは、記念品の代わりに基金に寄付することを決定しました。次の寄付はほどなく米国カリフォルニア州サンフランシスコRCから寄せられました。基金がやがてロータリー財団に発展していく、その過程の出来事です。

アーチ・クランフは、貧しい少年時代を経て、米国オハイオ州クリーブランドで実業家として大をなした立志伝中の人物です。また、アーチ・クランフは、フルート奏者(14年間クリーブランド交響楽団の団員でした)やスポーツマンとしても活躍しました。アーチ・クランフは、国際ロータリーの新定款を起草する委員会の委員長として、地区を設け、地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立した書類の責任者でした。また、アーチ・クランフは全ロータリー・クラブのために標準ロータリー・クラブ定款と細則を書き上げ、それは1915年に採択されました。ロータリーの初期において、アーチ・クランフの仕事は、ロータリーの発展に必要な結束を築くことでした。

1912年から1913年にかけて、アーチ・クランフは、クリーブランドRC会長を務めました。友人達はアーチ・クランフを次のように評していました。「寝てもさめてもロータリー」の人間であると。当時ですら、アーチ・クランフは、いつも将来に目を向け、ロータリーがよい仕事を続ける方法を模索していました。アーチ・クランフがロータリーにかける夢の一つを初めて吐露したのはクリーブランドRCの会長のときでした。クラブ会長としての最後のスピーチで、今後、クラブが多くなることができるように「非常時基金」を作ること提案しました。「非常時基金」の提案は、4年後のアトランタで、「ロータリーが基金をつくり、何かよいことをしようではないか」という形で再登場します。各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦中にアーチ・クランフの夢が提起されたということは、アーチ・クランフの理想の素晴らしさのあかしと言えましょう。ライオンズ・クラブ・インターナショナルの1917年創設、また、第1次世界大戦のさなかにロータリー財団の原形が誕生したのです。

1928年ミネソタ州ミネアポリス国際大会で、この基金はロータリー財団と改称され、国際ロータリー内の別個の存在になりました。当時、管理委員であったアーチ・クランフは次のように述べています。

「われわれはこの財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです」。

ロータリーはまもなく第2世紀に入ろうとしています。まさに幾世紀にもわたる運動になろうとしています。

アーチ・クランフ以上に財団の目的、企画を理解した人はいません。当初より、アーチ・クランフは、ロータリー財団が、奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進するためのものと認識していました。ロータリアン誌の1928年9月号の記事で、この目的の達成方法の見本例を挙げています：学生の交換、グループの交換、国際事業関係を通じての友好。1928年にアーチ・クランフが思い描いたプログラムの多くは、現在、奨学金、研究グループ交換、マッチング・グラントなどの形で生き続けています。

アーチ・クランフは、ロータリーを不滅にする手段として基金を構想しました。「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ、大理石に碑名をきざんだとしても、やがてはくずれてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中に碑銘をきざむなら、そして、ロータリー精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、われわれがきざんだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう」。

最初は、アーチ・クランフの夢は生まれてすぐ死んだかのように見えました。初期の頃、財団は、基金をつくるだけでなく、ロータリーの理想にふさわしいプログラムを開発しようとして苦心していました。実際、成果もなく、年月が過ぎました。大恐慌に見舞われ、経済は沈滞し、多くのロータリアンが破産を免れようと必死のときでした。財団は国際社会に奉仕することを目指しましたが、ロータリアンの心に訴えることができませんでした。

1930年代には、大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めました。そのとき、財団は、最初の補助金を授与したのです。ロータリーの創始者、ポール・ハリスが名前を秘して、米貨500ドルを寄付し、身体障害児童保護国際協会にその500ドルを贈ることを要望したのです。この身体障害児童保護国際協会は、ロータリアンのエドガー・F. "ダディー" アレンの創立したものです。これが、現在の全米イースター・シール協会に発展しました。障害者援助というダディー・アレンの独創的な活動は1919年に始まっていました。障害者のリハビリテーションを援助しようというダディー・アレンの使命感は、多くのロータリアンの心をとらえました。一時は、ロータリーの綱領の一つに提案されたほどでした。最初の財団補助金は、現在まで続くロータリーとリハビリテーション活動の長い提携の一端にすぎません。ポリオ・プラスによって、財団の熱意は、リハビリテーションという枠を越えて一生の障害または死に至る小児病の予防にまで発展しました。

多くの面で、最初の補助金が財団を通じて後年発展した補助金とプログラムの基調をなしました。何が正しく、何をしなければならないかに関する基準になりました；困窮している人々がよりよい暮らしを送れるようにする基準になりました；青少年のためになることをする、その基準になりました--将来に投資するロータリーの絶えざる熱意を暗示するものです。

1930年代と40年代には、各地のロータリアンが財団に注目するような試みが数々なされました。募金キャンペーンも考慮されました。特別週間としてロータリー財団週間が提案されました。しかし、特定の支援プログラムがなくては、ロータリアンはそのエネルギーも資金もどこに充てたらよいか分かりませんでした。

第2次世界大戦がようやく終わると、世界平和と理解を推進するアイデアがあふれ出てきました。新しく創設された国連は、こうした目標を達成できる組織とみなされましたが、ロータリアンは、挫折感を抱いていました。国際舞台は無数の奉仕の機会を提供してくれますが、そのニーズをかなえる団体がなかったのです。1946年1月にRI理事会は次のような声明を出しています。

「国際関係改善の必要性が急速かつ広範囲に高まってきたものの、ロータリーの綱領第4項の『国際奉仕』を推進するに当たって何か分かりやすく、実際的で効果的なことをしようと努力中のロータリー・クラブは無力感を味わっていました。ロータリーが、世界の人々のあいだに相互理解を推進するために世界的影響力のある組織として、その義務を果たそうとするなら、なすべき重要な仕事があります。この仕事の多くは....一つのロータリー・クラブだけでなく、複数のロータリー・クラブ、国際ロータリーまでもまきこむ協力が必要です。単独で、または、個々のロータリー・クラブおよび国際ロータリーの活動を補足する調整、援助機関としてのいずれでも機能できるような組織の必要性が明らかになりました。ロータリー財団は、このことを実施すべきであり、実施することができるのです」。

2度にわたる世界大戦で、複数のロータリー・クラブの協力という視点が芽生えました。調整、援助機関としてロータリー財団が脚光を浴びる条件が整いました。

財団の発展

1947年1月27日に、ポール・ハリスがイリノイ州シカゴの自宅で亡くなりました。70カ国以上

30 万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼みました。しかし、ポール・ハリスの死は、財団の転換点になりました。ポールの逝去で、寄付が国際ロータリーに相次いで寄せられるようになりました。財団は、ポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団寄付をお願いしました。その反響は素晴らしいものでした。翌年の 7 月までに、米貨 130 万ドル以上が寄付されました。

1947 年には最初の財団プログラムが実現されました。それは、高等研究奨学金と呼ばれるもので、1 年目は、米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の 18 人の若い人たちが選ばれ、他国でそれぞれの専門分野を勉学しました。当時、この人たちはポール・ハリス・フェローと呼ばれていましたが、これが最初のロータリー国際親善奨学生でした。

1951 年 6 月 3 日に、アーチ・クランフがオハイオ州クリーブランドで亡くなりました。しかし、アーチ・クランフは、自分の夢が実現され始めるのを目のあたりにすることができました。明らかにポール・ハリス記念基金のおかげで、財団は、諸活動に携わり、ロータリーの理想を掲げるプログラムを創設できるようになりました。1951 年までに、財団はアーチ・クランフが当初考えていたような国際奉仕に献身する団体に発展していたのです。

現在から振り返れば、財団の活性化につながるようないろいろな出来事を見ることができます。偶然や必然が入り交じっています。まずは、第 2 次世界大戦の終結です。世界的に紛争が解決され、人々が手をつなぐときでした。また、世界平和と理解を推進する組織の概念は並々ならぬ関心呼びました。第 2 に、ポール・ハリス記念基金の創設を通じて、財団は、財政的安定をかちとりました。さらに、第 3 に、財団は、奨学金プログラムによって、ロータリーの目標と理想をかなえ、ロータリアンの心をとらえるプログラムを発見しました。

財団の発展は、プログラムを開発したときに始まりました。世界中のロータリアンの心をとらえたのはプログラムだったのです。どのプログラムもロータリーの理想をかかげ、はぐくむものばかりです。

さらに、1957 年に、ロータリー財団は、財団の活動に寄付した人々への感謝を示す手段として、ポール・ハリス・フェローの認証を開始しました。自ら、または第 3 者の名義で財団に米貨 1,000 ドル(または相当額)を寄付すると、ポール・ハリス・フェローとして認証されます。46 年経過した 2004 年 3 月 31 日現在、ポール・ハリス・フェローの数は世界で 886,632 人にのぼります。1 年

間で約 5 万人の新ポール・ハリス・フェローが誕生しています。

財団は大きく発展しましたが、70 年代、80 年代、90 年代を通じてその勢いは止まるところを知りませんでした。

国際ロータリーは 1980 年の 2 月、ロータリー年度でいえば、1979-80 年度に 75 周年を迎えました。75 周年の前年度の 1978 年 4 月の RI 理事会で保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム (Health, Hunger, and Humanity Program—3-H) 開発のための 75 周年記念基金の設置を決定し、1978 年 5 月の東京国際大会で発表しました。当時 18,000 くらいのロータリー・クラブがありましたが、基金に米貨 728 万ドル以上集まりました。

現在ですと、3 H プログラムは、財団プログラムですが、当時は 75 周年を記念して RI の新プログラムとしてスタートしました。1979 年 7 月 1 日付けで、3-H プログラムはロータリー財団に管理を移管されました。1983 年 7 月 1 日より、名実ともに 3-H プログラムは財団の活動となりました。

3-H プログラムの目的は国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展をはかることです。3-H 補助金は、一つのクラブまたは地区が、単独で実施するには大きすぎる長期的な草の根レベルの自主自助の開発プロジェクトに授与するものです。

大規模なプロジェクトを取り上げようというのは、ある意味でこのときが初めてですので、当時の資料では、『75 周年記念事業計画は、他のロータリー・クラブ奉仕計画と異種のものではありません。個人的な奉仕を通じて他の人々の役に立ちたいというロータリアンの理想とまったく同じであります。ただ、この計画はその度合に若干の違いがあります』と述べています。

ロータリーは、個人奉仕から一步踏み出して、新しい道を歩み出しました。この 3-H プログラムから、ポリオ・プラス・プログラムやロータリー・ボランティア・プログラムが生まれました。

ポリオ・プラス・キャンペーンの始まった 1985 年には、会員数は 100 万を超え、ロータリー・クラブは、世界で 22,357 を数えるようになりました。2003 年 12 月末現在、ロータリーは、166 の国

に 31,600 以上のロータリー・クラブに約 121 万人の男女会員を擁します。

財団プログラムも世界のニーズと共に、多様化し、寄付も、会員数にかかわらず、増え続けています。2002-03 年度はポリオ・プラス撲滅キャンペーン (Polio Eradication Fundraising Campaign--PEFC) への寄付を含め、1 億 3,300 万ドルという空前の寄付が寄せられました。

ロータリー財団のプログラム

ロータリー財団のプログラムにより、ロータリー財団は発展しましたが、プログラムそのものはロータリー財団の目的を推進する道具ですので、新しいプログラムが生まれたり、時勢に適合しないプログラムを廃止したり、あるいは統廃合したりして、現在に至っています。現在、プログラムは、大きく次の 3 種類に分けることができます。

1. 人道的プログラム (Humanitarian Program)

マッチング・グラント (Matching Grants)

地区補助金 (District Simplified Grants)

個人向け補助金 (Individual Grants)

3 - H 補助金 (3-H Grants)

2. 教育的プログラム (Educational Program)

国際親善奨学金 (Ambassadorial Scholarship)

世界平和奨学金 (World Peace Scholarship)

研究グループ交換 (Group Study Exchange --GSE)

大学教員のためのプログラム (Rotary Grants for University Teachers)

3. ポリオ・プラス・プログラム (PolioPlus Program)

人道的プログラム

マッチング・グラント

マッチング・グラントは、現在、ロータリー財団最大のプログラムです。ロータリー財団の補助金総支出額の 3 分の 1 強を占めます。

ロータリー財団は 4 大奉仕部門中の主として国際奉仕の一翼を担います。国際奉仕という観点からロータリー財団を見てみます。あるクラブが社会奉仕プロジェクトを計画しますが、資金、人材面でそのクラブでは手に負えません。そして、海外に援助を求めます。海外のクラブがその要請にこたえます。これで社会奉仕が世界社会奉仕となります。世界社会奉仕の場合、必ずしも資金とは限りません。書籍や毛布を寄贈する場合があります。世界社会奉仕で学校を建設することもできます。恵まれない子供たちに奨学金を贈ることもできます。この段階では、クラブまたは地区レベルの活動であり、ロータリー財団は関与していません。

世界社会奉仕プロジェクトが一定の条件を満たしますと、ロータリー財団のマッチング・グラントという補助金を受けることができます。マッチング・グラントというと分かりにくいかもしれませんが、最初は特別補助金、次いで同額補助金と呼ばれていたものです。マッチング・グラントの資格要件は人道的プロジェクトであるということです。よく開発途上国の恵まれない学生に奨学金を出したい、というクラブがあります。ロータリー財団には国際親善奨学金という教育的プログラムがありますので、そのような奨学金プロジェクトは、マッチング・グラントとしての資格要件に欠けます。数年にわたるような長期プロジェクトは、3 - H 補助金がありますので、これもマッチング・グラントとしての資格要件に欠けます。

建物の建設などもマッチング・グラントを受ける資格がありません。ですが、トイレの建設は認められています。人が 1 日のかなりの時間を過ごせるような建物は認められません。トイレに一日いる人はいないと思いますので、トイレは許容範囲内です。シェルター(仮設住宅)が例外的に認められていましたが、現在は廃止されています。

マッチング・グラントの資格要件が大体分かりましたら、次に、いくら補助金を受け取ることができるかをみてみましょう。マッチング・グラントの旧名、特別補助金(special grant)は分かりやすい名称と思いますが、クラブや地区が単に補助金を受け取るための補助金ではなく、クラブや地区も資金を拠出しなければならない、自助努力が必要という意味を出すために同額補助金(Matching Grant)という名称になりました。クラブや地区が寄付をして、その寄付に見合った補助金を財団が授与するという意味です。しかし、ニーズが増え、同額補助金の必要性が高まりますと、財団は、寄付の同額相当分の補助金を出せなくなりました。英文は同じですが、同額補助金と訳語が使えなくなり、マッチング・グラントと改訳しました。現金の場合、半額、DDF(District Designated Fund--地区財団活動資金)を使う場合、同額の補助金が授与さ

れます。例：ブラジルのクラブが植樹のために 100 ドルの現金を出すとします。そして日本のクラブが 900 ドルの現金を出すとします。寄付合計の 1,000 ドルの半額の 500 ドルを財団が補助金として支給するというものです。これが現金でなく DDF(地区財団活動資金)を使う場合、財団の補助金は 1,000 ドルになります。DDF についてはシェア・システムの項目を参照して下さい。

クラブや地区の拠出額に応じて最高 15 万ドルまでの補助金を授与します。このプログラムは多年にわたり著しい発展を遂げました。初年度の 1964-65 年度においては、わずか 3 件の補助金が財団管理委員会によって承認されたにすぎませんが、2002-03 年度においては 1,800 件以上の補助金が授与されました。日本の場合、あまり補助金を申請しないと思われていますが、2002-03 年度に 90 件くらいが承認されています。毎年 100 件前後くらいです。但し、日本が受益者になる例は非常に少なく、大抵の場合、援助提供者(International partner)です。日本の場合、現金をマッチング・グラントに投入するのは 24 万ドルくらいで DDF38 万ドルを含め 62 万ドルくらい寄付しています。マッチング・グラントに DDF を活用する例が多いようです。現金をマッチング・グラントに寄付する場合、用途指定寄付となり、ポール・ハリス・フェローの認証を受けることができます。DDF を寄贈する場合、ポール・ハリス・フェローなどの認証はありません。

海外に消防車を寄贈する、医療器具を贈ることを考えている場合、マッチング・グラントの申請を検討してみてください。井戸を掘る、木を植えるなどが、マッチング・グラントの代表的プロジェクトです。旅費はマッチング・グラントに該当しませんが、ベッドや衣類を送る場合、輸送費はマッチング・グラントとして適格です。

今日、マッチング・グラントは、衛生や水質浄化を始めとして、識字率向上プログラムやあらゆる保健問題など国際規模の人道的项目について、クラブと地区に授与されています。世界社会奉仕は人道的项目も教育的项目も含まれますが、マッチング・グラントは人道的项目のみが対象です。人道的项目と教育的项目の境目に位置するのが識字プロジェクトです。識字教育は、学問をするというより、人間として暮らしていくうえで必要不可欠という考えで、ロータリーでは人道的项目に分類されています。

その代表的なものは Concentrated Language Encounter(CLE、語学力強化研修講座)と呼ばれるオーストラリアで開発した識字教育法でタイ語教育に採り入れられ、幼稚園から 6 年生ま

での教材が開発されました。この結果、対象とする農村地域の学校の入学者は 67 パーセントも増えました。このプログラムは、1990 年には、タイにおいて七つ以上の県を含むまでに発展しました。成功率が大変高かったのでタイ政府は 25 の県を含めることで、1992 年にこのプロジェクトを引き継ぎました。

タイの識字率向上プロジェクトは、大規模で持続性のあるプロジェクトで、保健、飢餓追放および人間性尊重プログラムにうってつけのものでしたが、現在はマッチング・グラント・プロジェクトとして実施されています。

個人向け補助金

従来の世界社会奉仕助成金とボランティア補助金が個人向け補助金というプログラムに統合され、2003 年 7 月 1 日からスタートしました。マッチング・グラントや地区補助金がプロジェクトに授与されるのに対し、個人向け補助金は、ロータリアン、その配偶者、ローターアクター、ロータリー財団学友など個人またはグループに授与されます。新しいプロジェクトを計画または実施する場合、海外でボランティア活動を実施する場合、旅費や食費が支給されます。個人向け補助金は、旅費が支給される唯一の補助金です。スタートしたばかりのプログラムのためもあり、日本の申請はこれまで 2 件、承認されたのは 1 件のみです。従来ボランティア補助金が 4 週間以上の活動を義務付けていたのに比べ、個人向け補助金は、旅行日を除いて 5 日と短縮され、使いやすくなりましたが、このプログラムの原点は難民キャンプで奉仕した歯科医などですので、単なる旅費補助金でないことにご注意下さい。申請が旅行日の 4 ヶ月前という点が、使いづらいところです。職業を生かす補助金ですので、四大奉仕部門では職業奉仕に関連の深い補助金です。

地区補助金

マッチング・グラントは国際奉仕、個人向け補助金は、ロータリアンの専門能力を発揮できる点で職業奉仕に関連していますが、社会奉仕に関連のある財団補助金もあります。それが地区補助金です。2003 年 7 月 1 日からスタートした新しいプログラムです。従来 CAP (Community Assistance Program 地域社会援助プログラム) やヘルピング・グラントなどを統合し、一つのプログラムとしたものです。ロータリー・クラブが地域社会

または国内で奉仕プロジェクトを実施する際の補助金です。ロータリー財団は国際奉仕とされていた点を大きく転換させたプログラムで、自国内の社会奉仕にもロータリー財団補助金が使えるようになりました。国際化が進み、地域社会と国際社会の差が減少しているのかもしれませんが、地区補助金の活用には上限を設けていて、バランスを図っています。

日本の多くのクラブが高齢者施設に車椅子を贈呈したり、公園に木を植えたりする際に、この補助金を活用しています。ロータリー・クラブは、日本事務局やロータリー財団に申請書を提出する必要はなく、地区に申し込みます。地区は、前年度に、つまりガバナー・エレクトのときに、ガバナーを務める年度の地区補助金を一括申し込みます。

またロータリー・クラブのある国とはマッチング・グラントを実施できますが、ロータリー・クラブのない国とはマッチング・グラントを実施できません。また、ロータリー・クラブの数がわずかな国の場合も地区補助金を活用できます。例えばカンボジアにおけるプロジェクトには地区補助金が利用できます。日本は、補助金をあまり使わないのですが、地区補助金に関しては金額にして世界の5分の1を申し込んでいます。

ロータリー財団が地区にあらかじめ補助金を振り込んでおき、地区がクラブ・プロジェクトや地区プロジェクトに補助金を授与しますので、前述のマッチング・グラントや個人向け補助金に比べ、クラブの申請手続きが比較的容易で、迅速に補助金を受け取ることができます。

マッチング・グラントと同様、建設、奨学金などに補助金を使えません。但し、障害者をピクニックに連れて行く場合のバスのチャーター代は、補助金の対象になります。

地区補助金は、ロータリー財団の補助金に対する不満をいくつか解消しています。マッチング・グラントを実施したが、相手国が補助金を受け取り、最終報告を提出しないというケースがあります。このような場合、善意の援助提供者までペナルティーが課されます。またマッチング・グラントの場合、申請してから実際に補助金を受け取るまで15週間以上かかります。ニーズにタイムリーに対応できない、という苦情が寄せられます。そういったものを解決したのが地区補助金です。

保健、飢餓追放および人間性尊重 (Health, Hunger, and Humanity--3-H) プログラム

現在、人道的プログラムである保健、飢餓追放および人間性尊重プログラムは、資金不足のため、凍結されていますが、このプログラムは、ロータリーに大きな影響を与えたプログラムでした。

1978年に、保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金が、国際間の理解、親善および平和を促進するための方法として人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的、社会的向上発展を図るために開始されました。3-Hプログラムは、国際ロータリーの創始75周年を祝って設立され、当初は国際ロータリーのプログラムでしたが、1980年に財団の活動の一つになりました。ロータリアンは、3-H補助金によって、奉仕の水準をさらに向上させました。

教育的プログラム

国際親善奨学金

ロータリー国際親善奨学金プログラムは、ロータリー財団の最初のプログラムで、現在もマッチング・grantと並ぶ大きなプログラムです。財団は、多くの国の有望な学生を他国に派遣し、国際親善と理解を育成してきました。奨学金プログラムは、1947年に18件の奨学生を派遣して以来、36,000人以上の奨学生に勉学の機会を提供してきました。

日本で最初のロータリー国際親善奨学生は清水長一氏で、1950年に米国のコーネル大学で学び、2人目は緒方貞子氏で、1951年にワシントン D.C.のジョージタウン大学で勉学しました。緒方氏は、長年国連で働き、国連難民高等弁務官となり、ボスニア-ヘルツェゴビナ、ソマリア、ルワンダなどの紛争地域の多くの難民に援助の手を差し伸べる上で重要な役割を果たしてきました。2003年10月にJICA(国際協力機構)の理事長に就任しています。また、緒方氏は、1996年ロータリー国際理解賞を受賞していますし、2004年大阪国際大会でも印象的な基調講演をしています。緒方氏は、その基調講演の中で「今日、どこに紛争が起きても、遠い国の出来事ではありません……さまざまな人種間の理解、寛容、率直さを推進する唯一の方法は教育だと固く信じています……ロータリーを通じて、社会奉仕の重要性を学びました。超

私の奉仕というロータリーの標語に、深く感銘し、その後の指針となりました」と述べました。現在は日本から毎年 300 人くらいの奨学生が選ばれていますが、初期は日本から選ばれる奨学生はただ 1 人でした。

1 学年度奨学金は、通常 9 カ月、1 学年度のためのものです。ほとんどの分野の研究が認められています。

1994-95 プログラム年度より、新たに、マルチ・イヤー国際親善奨学金と文化研修のための国際親善奨学金が設けられました。マルチ・イヤー国際親善奨学金は 1 学年度国際親善奨学金によく似ています。但し、名称からも分かる通り、その期間は 2 年間です。このマルチ・イヤー国際親善奨学金は、他国で学位を取得するための費用の一部として、年額一律の補助金を支給します。奨学生は、ホスト国の言語に堪能でなければなりませんし、学位を取得できる教育課程に登録しなければなりません。

文化研修のための国際親善奨学金は、3 カ月または 6 カ月間、他国で語学力強化研修を受け、その国の文化に溶け込むことによって、語学力を磨く機会を提供するものです。奨学生は、自分が勉学しようとしている言語の知識をある程度もっていなければなりません。奨学金が始まる年度に少なくとも 2 年間大学課程を完了しているか、職業に従事していなければなりません。

ジャパン国際親善奨学金は、日本だけが利用できる奨学金で、奨学生に日本で、日本語および日本文化を学ぶ機会を提供することを目的にしています。1997-98 年度からスタートし、現在は毎年平均 5-6 人の学生が日本で学んでいます。期間は 12 カ月で、奨学金は 29,000 ドルと設定されています。

世界各地で国際親善奨学生に選ばれても、受験失敗などの理由で辞退する人は 10% 程度ですが、日本の場合、20 ~ 30% が辞退しています。そのため、現在は奨学金候補者がオリエンテーションに出席することが義務付けられています。

世界平和奨学金

ロータリアンは長い間世界理解と平和というロータリーの使命を推進するためにロータリー大学の創設を夢見てきました。1996 年に、ロータリー創始者ポール・ハリスの没後 50 周年にちなみ、

ロータリー大学の構想を審議する委員会が設置されました。その結果、国際問題研究のためのポール・ハリス・センターを世界各地に創設しようという勧告が出されました。1999年に、管理委員会は、八つの大学と提携する計画を承認しました。

2000年10月の管理委員会決定により、このプログラムはポール・ハリスに敬意を表するものではあるが、ロータリー世界以外でのポール・ハリスの知名度が低いため、「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリー・センター」(長い名称ですので、通常ロータリー・センターと略しています)と名称を変えました。ロータリー・センターで学ぶ奨学生を世界平和奨学生と呼び、2002-04年度からスタートしました。世界7カ所8大学は下記の通りです。

ロータリー・センター	2002-04年度	2003-05年度	2004-06年度
国際基督教大学(日本、東京)	7	9	7
パリ政治学院(フランス、パリ)	8	9	9
ブラッドフォード大学(英国、ウェストヨークシャー州)	12	13	10
デューク大学/ノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国ノースカロライナ州)	9	7	6
カリフォルニア大学バークレー校(米国カリフォルニア州)	10	10	10
サルバドル大学(アルゼンチン、プエノスアイレス)	12	9	8
クイーンズランド大学(オーストラリア、クイーンズランド州ブリスベン)	11	8	10
計	69	65	60

紛争解決と平和に関する国際問題について研究するための奨学金です。地区は1名の候補者を推薦できます。世界の全地区から推薦された候補者の中から競争制の下で70名までの世界平和奨学生を選びます。

世界平和奨学生は、3年ないし5年以上の職歴を必要としますので、大学を卒業したばかりの人は選ばれませんので、国際親善奨学生より若干年長になっています。

日本からは第1期生として、第2630地区推薦の杉山恵奈さんがノースカロライナ大学で、第2750地区推薦の小松崎利明さんがブラッドフォード大学で勉学し、間もなく卒業します。第2

期生は、第 2710 地区推薦の野上由美子さんと第 2770 地区推薦の岸谷美穂さんがブラッドフォード大学、第 2680 地区推薦の細井麻衣さんがデューク大学、第 2580 地区推薦の近松佳郎さんがクイーンズランド大学で学び、第 3 期生としては、第 2650 地区の恩田牧さんがブラッドフォード大学、第 2590 地区の清水麻衣子さんがクイーンズランド大学に合格しています。

研究グループ交換

一つの国から別の国に、専門職務と事業に従事する人のチームを交換するという考えは、1965 年当時は例のないものでした。このプログラムは、1965 年 1 月に初めて発表されました。同年 7 月までに 34 のロータリー地区が最初のグループを選び、専門職務に携わる青年チームを世界各地に派遣しました。このチームは、他国を訪問し、他国について学びました。日本は 1965 年の発足時に GSE チームを受け入れ、翌年は派遣しています。ですが、世界から見ると、日本の参加は多いとは言えません。大体、例年、20 地区くらいが参加しています。

GSE の下で、異なる国の組み合わせられたロータリー地区は、ロータリアンでない専門職務チームと、ロータリアンのチーム・リーダーを選びます。次いで、地区は、4 週間から 6 週間の旅行チームを交換します。この GSE の一部で重要なのは、チーム・メンバーがホスト地区で同じ専門職務に従事している人と会うことが含まれているという点です。このようにして、チーム・メンバーは、異なる文化の中で自分の職業がどのように遂行されているかを見る機会に恵まれません。

ロータリー財団がチームの往復旅費を支給します。ホスト地区がそれぞれホームステイの宿泊、国内旅行、地区内の名所見学などの費用を負担します。

GSE プログラムは大変成功しました。1965 年以来、100 カ国 10,600 チーム 46,000 人以上の人々が研究グループ交換に参加し、実質上すべてのロータリー地区が、ともかく、研究グループ交換に参加してきました。すべての地区は、申請する資格がありますし、申請するよう奨励されています。2002-03 年度は 397 チームが参加しています。2002 - 03 年度より、研究グループ交換は隔年の実施となりました。1 年目がチームの派遣であれば、2 年目は受け入れということですが、1 ロータリー年度に研究グループ交換の受け入れと派遣を希望する地区は、DDF(地区財団活動資金)を使うことになります。

大学教員のための補助金

大学教員のための補助金は、自国以外の低所得国の大学で教鞭を執る優秀な大学教員に授与されるものです。

このプログラムは、1985-86 年度に発足しました。以来、日本では 2 人の大学教員がこの補助金を受け取っています。このプログラムは、財団の最も重要な強調事項の中の二つ、教育とボランティア活動を融合するものです。ロータリーは超我の奉仕を信奉しているため、ロータリアンや近親者は補助金の受領者になることができないのですが、大学教員のための補助金と個人向け補助金に限り、ボランティア活動の要素が強いため、ロータリアンであっても受領することができます。

ポリオ・プラス・プログラム

ポリオ・プラスのきっかけとなったのは、国際ロータリーとフィリピン政府が 1978 年にフィリピンの児童にポリオの予防接種を実施したプロジェクトです。目を見張るような成果を上げたうえ、ポリオの予防接種が可能だということが明らかになりました。ジョナス・ソーク博士が 1953 年にポリオ・ワクチンを開発したからです。ポリオ・ウイルスを撃退する抗体をつくり出すワクチンです。さらに 1954 年にアルバート・セービン博士は経口生ワクチンを開発しました。これは、長期間免疫性を持続し、ウイルスの伝播を阻止するものです。その結果、1950 年代後半と 1960 年代前半は、数百万人の学齢前の児童に対する地域レベルの予防接種が世界の多くの先進国で行われました。しかし、1980 年当時で、この障害をもたらす疾病に対し予防接種を受けたのは世界の児童のわずか 20 パーセントにすぎないと推定されました。問題はワクチンの費用と輸送です。ほとんどの開発途上国は、国内の児童に予防接種するのに必要なワクチンの量を確保できないし、また、ワクチンを必要とする人にワクチンを届ける確かな方法も持っていませんでした。

フィリピンのプロジェクトで、ポリオと闘う戦略が開発され、計画実施に必要な諸準備が整えられました。ロータリー指導者は、フィリピンで学んだ教訓から、開発途上世界の実質上すべての児童に 5 年間でポリオの予防接種をするのに十分なワクチンを提供するという大きな任務に着手することを決めました。ロータリーは、政府や国際的保健機関と協力することによって、児

童にポリオと他の五つの小児病(はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核)の予防接種をする指導的民間団体となりました。ポリオ・プラスが誕生したのです。

多くの成果が続きました。ポリオ・プラスは、ロータリアンとその友人、家族の心をつかみました。財団は、当初の目標の米貨1億2,000万ドルの2倍の金額を集めました。真剣な予防接種活動が花開いたのです。

ロータリーは、1991年末までに、ポリオ・ワクチンを希望する全開発途上国にワクチンを5年間提供するという当初の目標を達成しました。

オーストラリア、ビクトリア州、メルボルンで開かれたロータリー1993年国際大会で、象徴的な行為が実現されました。国際大会の壇上で、元RI会長で元財団管理委員会委員長のカルロス・カンセコ氏が、ポリオ・プラス・ワクチンを受ける5億人目の子供に予防接種をしたのです。ある国連高官は言いました。「ロータリーは政府の力と親の優しさを兼ね備えて行動した」と。

世界からポリオを撲滅する大きな1歩は、1994年9月に到達しました。ポリオ撲滅証明国際委員会が西半球においてポリオ・ウイルスの伝播を打ち破ったと宣言したのです。次いで2000年には西太平洋地域、2002年にはヨーロッパ地域でもポリオの撲滅が証明されました。

2002年4月より8,000万ドルの募金キャンペーン(Polio Eradication Fundraising Campaign PEFC)がスタートしました。日本の場合は誓約で3年間(2002年7月から2005年6月まで)に1,600万ドル集めることを目標としています。2004年4月末現在で、日本の寄付額は1,007万ドルに達しました。

2003年5月31日に、世界保健機関、国際ロータリー、米国疾病予防センター、ユニセフを中心とする「ポリオ根絶計画」主要パートナーは、2005年までにポリオを根絶するための戦略を変更することを発表しました。新しい戦略の特徴は、既にポリオ発生が報告されていない93カ国で実施されている予防接種キャンペーンを修正して、ポリオの発生が報告されている7カ国(患者が多い順にインド、ナイジェリア、パキスタン、エジプト、アフガニスタン、ニジェール、ソマリア)と危険が残る6カ国(アンゴラ、バングラデシュ、コンゴ民主協和国、エチオピア、ネパール、スーダン)に、これまで以上の資金を投入し、重点的な活動をすることにあります。

2004年1月15日ポリオ発生国の諸大臣が、ポリオ撲滅のためのジュネーブ宣言に調印しました。この時点でソマリアがポリオの発生ゼロとなり、ポリオ発生国は6カ国に減りました。

アーチ・クランフはかつて次のように書いています。「障害児、癌、結核を直すという偉大な活動をロータリーが支援できるとしたら、何と素晴らしく、心の広い奉仕活動でしょう...ロータリーが奉仕の領域を広げるのに限度などありません」。ポリオ・プラスによってアーチ・クランフのもう一つの夢が実現されました。なぜなら、ロータリーは、予防を通じて、障害児の治療を実際援助したからです。

ポリオ・プラス・パートナー

ポリオ・プラスはワクチン購入のために使われていますが、ワクチンだけがあっても予防接種できるわけではありません。NIDs (National Immunization Days--全国予防接種日)に子供達を集める広報活動、ボランティアのエプロンやお弁当代なども必要です。こういった費用を支えるのがポリオ・プラス・パートナーです。ポリオ・プラスとは異なり、世界社会奉仕プロジェクト一覧表のようなオープン・プロジェクト一覧表からプロジェクトを選ぶことができます。

次にロータリー財団の多様なプログラムを支えている寄付について見てみましょう。

寄付

寄付は大きく分けて次の3種類です。

1. 年次寄付
2. 恒久基金寄付
3. 使途指定寄付

年次寄付

年次寄付は、寄付の基盤であり、財団プログラムの燃料と言えるものです。この寄付は使い道を指定することなく、ロータリー財団に寄付するもので、寄付して3年後に、地区の年次寄付総額の60% (2003 - 04 寄付年度で、2006 - 07 プログラム年度から50%) については、地区がそ

の使い道を決定することができます。

ほとんどは個人の寄付ですが、地区やクラブが募金行事やチャリティー・コンサートを主催して、その純益をロータリー財団に寄付するというケースもあります。また、家族や恩人の死を悼み、メモリアル・コントリビューションをするという場合もあります。

ロータリー財団は、惜しみなく寄付してくれる人々に対して、いろいろな形で感謝の意を表明しています。ロータリーの創始者に敬意を表して、ポール・ハリス・フェローとして認証しています。これは、自ら、または第3者の名義で米貨1,000ドル以上を寄付した人をポール・ハリス・フェローとして認証します。記念となる証書、メダル、ピンを贈呈します。必ずしも一括1,000ドルを寄付するには及びません。1957年に、12人がポール・ハリス・フェローに指名されました(その12人の中には、死後に認定された、ロータリーの創始者、ポール・ハリス自身も含まれています)。1984年までに10万人のポール・ハリス・フェローが認証され、わずか5年後には、25万人に達しました。2004年現在、90万人近くがポール・ハリス・フェローに認証されています。これは、財団が多くの支援者に礼を述べることのできる最上の方法の一つです。ポール・ハリス・フェローになることは、単なる金銭的寄付をしたことを意味することだけでなく、財団のプログラムの歯車を動かすことを意味します。以下に寄付額に応じた認証を挙げますが、この寄付額は年次寄付と使途指定寄付と認証ポイントの合計です。

寄付額	認証
1,000ドルから1,999ドルまで	ポール・ハリス・フェロー
2,000ドルから2,999ドルまで	1回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(サファイア一粒)
3,000ドルから3,999ドルまで	2回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(サファイア二粒)
4,000ドルから4,999ドルまで	3回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(サファイア三粒)
5,000ドルから5,999ドルまで	4回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(サファイア四粒)
6,000ドルから6,999ドルまで	5回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(サファイア五粒)
7,000ドルから7,999ドルまで	6回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(ルビー一粒)
8,000ドルから8,999ドルまで	7回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(ルビー二粒)
9,000ドルから9,999ドルまで	8回目のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー(ルビー三粒)

使途指定寄付

年次寄付は、3 年間後のプログラムに使います。恒久基金寄付は、元金を使わず、財団が運用して、その利息だけ使います。使途指定寄付は、あらかじめ使い道を決めて寄付するものです。ポリオ・プラスがその代表的例です。ポリオ・プラス寄付は、一度、ポリオ・プラス基金に入れ、ニーズがある都度使っていきます。ほかのものに流用されることはありません。また、マッチング・グラントで、例えばブラジルに井戸を掘ったり、木を植えるために寄付をした場合、事務処理のため数週間財団におかれるだけで、直ちに、ブラジルに送金されます。

恒久基金寄付

年次寄付は3年後にすべて使われます。ロータリー財団が資産をもてば、好不況に関係なく、プログラムを継続できます。そこで、1980-81 年度に、ロータリー財団は世界理解と平和のためのロータリー財団基金の設立を決定しました。この基金への寄付は、投資され、その収益だけが財団プログラムの支援に使われます。1994 年 11 月に、この基金は、ロータリー財団恒久基金と改称されました。年次寄付の認証がポール・ハリス・フェローであるのに対し、恒久基金寄付への認証はベネファクター(後援者)です。ベネファクターとは、その資産計画に財団を含めるか、恒久基金に少なくとも米貨 1,000 ドルを寄付した人のことです。ベネファクターの認証には、そのための証書、ポール・ハリス・フェローのピンまたは他のロータリー・ピンと一緒に着けることのできる記章が含まれています。2004 年 3 月 31 日現在、ベネファクターの数は約 63,000 人です。2004 年 4 月 30 日現在の恒久基金の累計額は 4 億 300 万ドル(純資産 1 億 3,590 万ドルと収益予測額 2 億 6,710 万ドル)です。

遺贈友の会

恒久基金に遺贈することもできます。これは生前、ロータリー財団に資産の一部を贈ると遺言することです。遺贈そのものには金額の規定はありません。但し、10,000 ドル以上の遺贈を約束しますと、遺贈友の会のメンバーとなります。遺贈友の会のメンバーにはクリスタルの置物を贈りますし、メンバーはベネファクターとして認証されます。遺贈友の会のメンバーは2004年5月末現在約3,600 人です。

大口寄付

アーチ・クランフがロータリーの理想を推進するための基金の概念を最初に提案したとき、ロータリアンが基金寄付を栄誉や特権と思うようなものを考えていました。そのちょっとしたアイデアがどこまで発展するかアーチ・クランフは想像できませんでした。時代の試練に耐える財団を築くうえで、今日、大口寄付は、重要な役割を果たしています。財団は大口寄付を次のように表彰しています。米貨 1 万ドル以上で 6 段階に分かれています：

レベル 1(ダイヤモンド一粒入りピン)	米貨 10,000 ドルから 24,999 ドル
レベル 2(ダイヤモンド二粒入りピン)	米貨 25,000 ドルから 49,999 ドル
レベル 3(ダイヤモンド三粒入りピン)	米貨 50,000 ドルから 99,999 ドル
レベル 4(ダイヤモンド四粒入りピン)	米貨 100,000 ドルから 499,999 ドル
レベル 5(ダイヤモンド五粒入りピン)	米貨 500,000 ドルから 999,999 ドル
レベル 6(ダイヤモンド六粒入りピン)	100 万ドル以上

年次寄付、恒久基金寄付、ポリオ・プラス寄付の総額で 1 万ドルを超えますと大口寄付者となります。累計で 1 万ドルに達していても、他の人から認証ポイントを受け取っていると、その額を差し引きます。

例えば、ある人の寄付合計が、年次寄付 6,000 ドル、恒久基金 1,000 ドル、ポリオ・プラス 2,000 ドル、認証ポイント 2,000 ドルの場合、合計 11,000 ドルになります。恒久基金を除いた総額が 10,000 ドルですので、マルチプル・ポール・ハリス・フェローの 8 段階目になり、ルビー 3 粒のピンを受け取ることができます。マルチプルポール・ハリス・フェローの上限は 8 回です。大口寄付の算出の際は、認証ポイントを除きますので、9,000 ドルとなります。この時点では、大口寄付者ではありませんし、ダイヤモンドのピンを受け取ることもできません。

25 万ドル以上の寄付者はロータリー本部の栄誉の殿堂に写真を飾られます。2004 年 5 月末現在、日本からは 3 人の方の写真が飾られています。東京南 RC の高山成雄氏、八潮 RC の田中作次氏、小野田 RC の土屋直裕氏です。

認証ポイント

ロータリー財団は、常に寄付を増やそうと工夫しています。その一つが認証ポイントで

す。以前、据え置きクレジットと言っていたものです。個人の場合、1,000ドルを年次寄付または使途指定寄付として寄付しますと、ポール・ハリス・フェローになります。さらに、200ドル寄付して累計1,200ドルになりますと、200ポイントの認証ポイントがつきます。航空会社の出しているマイレージやデパートのポイント・クラブと似たようなものです。

寄付を続け、寄付実績が累計2,000ドルに達すると、この認証ポイントが1,000となります。そうなりますと、自分がマルチプル・ポール・ハリス・フェローとなり、他の人をポール・ハリス・フェローに指名できます。奥様をポール・ハリス・フェローにしてもよいし、他のロータリアン2人に500ポイントずつあげて、その人に現金で500ドル寄付してもらい、2人をポール・ハリス・フェローにすることもできます。このように現金の寄付と認証ポイントを合計するのがマッチング・クレジットと言います。

個人のポイントのほかに、クラブのポイントというのもあります。マッチング・グラントを申請して、寄付しますと、申請クラブまたは地区にポイントがつきます。そのポイントを会員に譲渡することができます。クラブ会員全員がポール・ハリス・フェローになりますと100%ポール・ハリス・フェロー・クラブになります。2004年4月末現在、日本の48クラブが100%ポール・ハリス・フェロー・クラブになっています。

使途指定寄付と年次寄付にはこの認証ポイントがつきますが、恒久基金寄付には認証ポイントがつきません。

財団の友

ポール・ハリス・フェローとして認証されるために一括1,000ドルを寄付するのではなく、無理のない範囲で、1回目に100ドルを寄付し、1,000ドルに達するまで随時寄付するというポール・ハリス準フェロー制度がスタートしたのは1957年のことです。当時の1,000ドルの貨幣価値は、現在では6,334ドルに相当するということです。このPaul Harris Sustaining Memberの名称が1999年に、Rotary Foundation Sustaining Memberと変わりました。そのとき従来と異なり、1,000ドルに達した後も、寄付し続けると定義されましたので、ロータリー財団準フェローではなく、財団の友と改訳しました。

2002年に財団の友が再定義されました。

「財団の友」会員は、年次プログラム基金へ毎年100ドル以上寄付する人のことです。

クラブ会員全員が財団の友となりますと100%財団の友クラブと呼ばれ、バナーが送られます。既に日本の3クラブ(吉川イブニング、八潮、葛生)が100%財団の友クラブになっています。

Every Rotarian, Every Year 毎年あなたも100ドルを

2001年と2004年規定審議会の決定で2005年の100周年までに毎年1人当たり100ドルの寄付を達成することが決議されています。日本の2002-03年度1人当たりの寄付は84ドル58セントですから、これを世界で達成できれば大変喜ばしいことですが、真意は、多額の寄付をする人もいて、少ない人もいて、平均100ドルではなく、ひとりひとりに何らかの財団寄付をお願いすることです。この100ドル達成の手段が財団の友です。ポール・ハリス準フェローですと、1,000ドルになると目標達成で終わりですが、財団の友には終わりはありません。毎年100ドルずつ寄付していただくものです。

シェア・システム

寄付を最も有効に使うことのできるような方法の一つが3年サイクルです。年次寄付は3年後のプログラムの費用として保管しておきます。3年サイクルによって、地区はプログラムを計画したり、奨学生を選考できます。この間、財団は、寄付金を投資して、管理、プログラム運営、寄付増進費用とします。その結果、寄付金は一銭残らず3年後にプログラムに使うことができます。これがシェア・システムです。シェア・システムにより、ロータリー財団は、世界の大規模な非営利団体の中で最も効率のよいものの一つとして評価されています。

すべての地区年次寄付は、寄付年度末に集計され、二つの活動資金に分けられます。60% (2003-04寄付年度は2006-07プログラム年度に使われますが、このときから、50パーセントになります)は地区財団活動資金(District Designated Fund--DDF)として、地区が使い道を決めることができます。残り40パーセントは国際財団活動資金(World Fund--WF)と呼ばれ、ロータリー財団がマッチング・グラント、個人向け補助金、GSEなどに効果的に使っていきます。

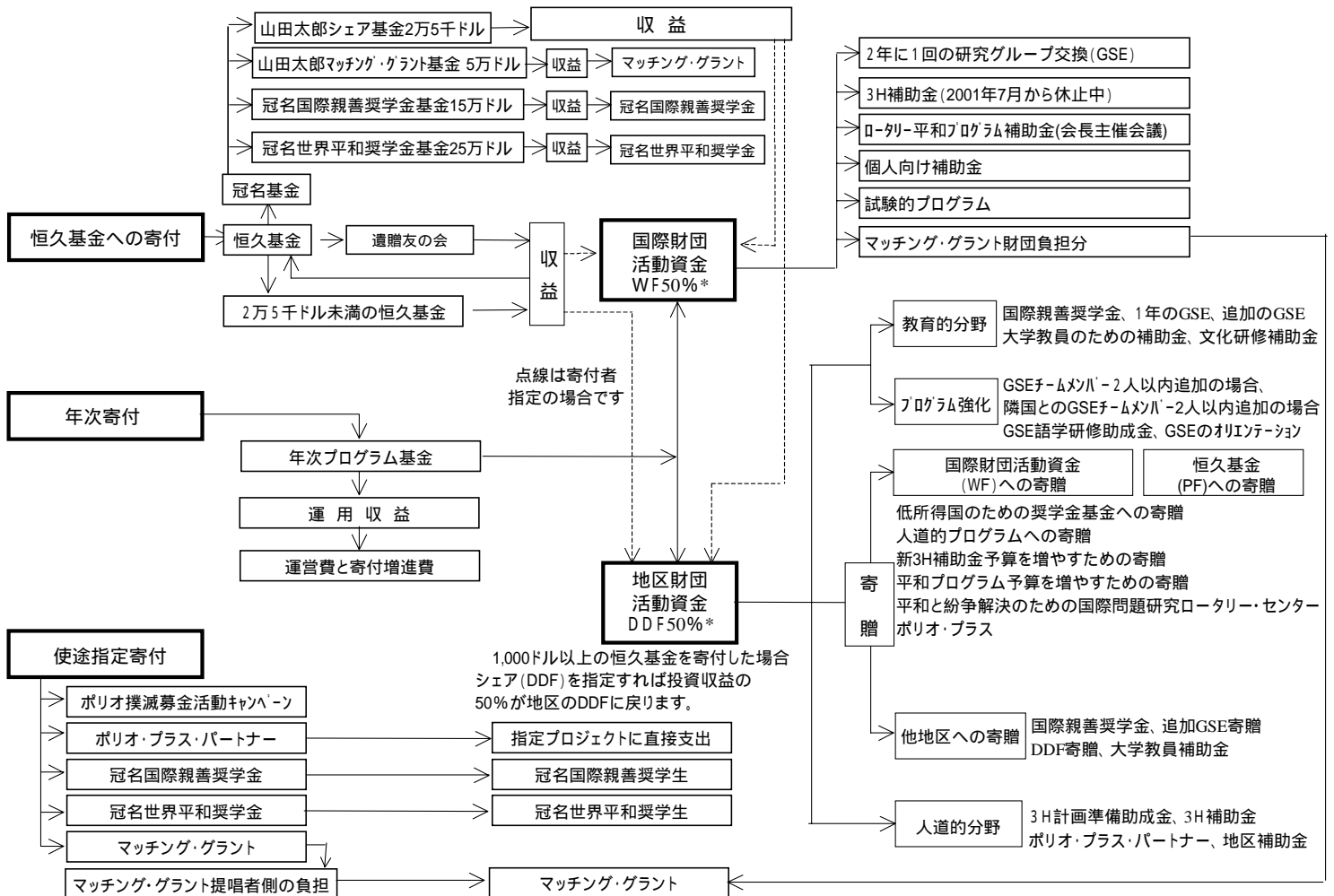
例えば、奨学金や地区補助金、大学教員のための補助金は、原則としてDDFを使い、個人

向け補助金は WF を使います。マッチング・グラントや GSE は、WF も DDF も使います。

2005 - 06年度まで恒久基金寄付は、冠名奨学金基金を除き、利息の 60%が DDF で、40%が WF です。ポリオ・プラス・プログラムは用途指定寄付によって資金を調達し、3 年間使わずにおくということはありませんので、WF も DDF も関係ありません。2004 - 05 年度までは、地区は DDF を、教育的分野、人道的分野、プログラム強化分野、寄贈分野の四つに配分していましたが、2005 - 06 年度より、配分の必要はなくなり、地区のもっている DDF だけ通知され、その中から地区が奨学金、地区補助金などに随時 DDF を使うようなシステムとなり、使いやすくなっています。

ロータリー財団への寄付金の行方

2004年6月28日



* 03-04年度寄付分、06-07プログラム年度から50%になります

ロータリー財団の管理運営

国際ロータリーのロータリー財団は国際ロータリー会長が任命し、RI 理事会が承認した 13 人 (2004 年規定審議会の決定で 2004 年 7 月 1 日から 15 人になります) の管理委員会が運営しています。1995 年規定審議会は管理委員のうち 4 人は、元 RI 会長で任期は全員 4 年と決定しました。

国際ロータリーに加盟するのはロータリー・クラブで、ロータリアンはロータリー・クラブに入会した会員です。ロータリアンは、ロータリー・クラブを通じて人頭分担金を国際ロータリーに支払います。それに対し、ロータリー財団は、任意の寄付で支えられています。

財団は、国際ロータリーと別個の法人ですが、その活動はロータリーのプログラム全体の大半を占めています。RI には四大奉仕部門がありますが、当初、財団プログラムは国際奉仕の領域でだけ運営されていましたが、現在は、その垣根がなくなり、職業奉仕や社会奉仕との関連も増えてきています。

ロータリー財団組織

RI 理事会と財団管理委員会は緊密に協力しています。4 人の元 RI 会長が管理委員を務めるだけでなく、理事会と管理委員会の合同常任委員会があり、共通の関連事項を審議します。RI の事務総長は、財団の最高執行役員であり、財務役員であります。RI と財団は、同じ監査人を使い、それぞれが、その計画、会合、方針、決定を絶えず報告するようにしています。このようなことは、すべて、国際ロータリーとロータリー財団の活動を調和のとれたものにするうえで役立っています。

ロータリー財団地域コーディネーター (Regional Rotary Foundation Coordinator—RRFC) は、管理委員会によって任命され、財団セミナーを運営するとともに情報を提供したり、助言をしたりして地区を指導します。2004 - 2006 年度のロータリー財団地域コーディネーターは第 1 ゾーンが第 2820 地区の片岡信彦氏、第 2 ゾーンが上野孝氏、第 3 ゾーンと第 4 ゾーン A が宮崎茂和氏です。RRFC の任期は 2 年から 3 年になりました。

地区ロータリー財団委員会(DRFC- - District Rotary Foundation Committee)の役割と責務は、2003 04 年度から大きく変わりました。地区ガバナーは、DRFC の職権上の委員となります。DRFC 委員長と現職のガバナーの兼任はできません。DRFC 委員長には、パスト・ガバナーを指名することが望ましく、その任期は 3 年ですが、理由があれば解任される場合もあります。DRFC 委員長を任命しなければ DDF を利用することはできません。

DRFC は七つの委員会によって構成されます。地区によっては、七つの委員会すべてを設置しないかもしれませんが、補助金委員会と年次寄付委員会は必ず設置するよう要請されています。

1. 補助金
2. 年次寄付
3. 恒久基金
4. 奨学金
5. 研究グループ交換(GSE)
6. ポリオ・プラス
7. 学友

2003 年 7 月より、DRFC がシェアの DDF 配分と用途を決定する責務を負います。DRFC は、地区ガバナーとガバナー・エレクトと協議してシェアの配分を決定します。

地区委員会のほかに、クラブ財団委員会もあります。多くのクラブの小委員会は前述の任務と似た任務を遂行しています。

ロータリー財団は世界の人々のために、いろいろなプログラムを実施しています。そのプログラムを毎年実施していくために、実施し続けるために、ロータリアンは寄付をしています。世界の人々の役に立ちたいと思う人が多数いるのでロータリー財団は発展してきました。

ロータリー財団の使命

ロータリー財団の使命は、2000 年に次のように改訂されました。

「ロータリー財団の使命は、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流プログラムを通じて、ロータリーの綱領とロータリーの使命を遂行し、かつ世界理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの努力を支援すること」

特定非営利活動法人 ロータリー日本財団 (NPO Rotary Foundation Japan)

現在は一括 30 万円以上の年次寄付と恒久基金寄付には、教育的プログラムに限り、税制上の優遇措置が講じられておりますが、ポリオ・プラスへの寄付については 30 万円以上の寄付であっても、税制上の優遇措置を受けることができません。日本のロータリアンの惜しみない寄付に、税制上の優遇措置を提供するのがロータリー財団の永年の夢でしたが、その実現を目指して、2004 年 7 月 1 日から、特定非営利活動法人 ロータリー日本財団が、国際ロータリーのロータリー財団の承認を得て、活動を開始します。2 年間の実績が認められれば、税制上の優遇措置を講じることができます。

その準備段階として、下記については(特活)ロータリー日本財団に振り込んで下さるようお願いいたします。

1)10 万円以上 30 万円未満の年次寄付と恒久基金寄付

2)10 万円以上のポリオ・プラス寄付

東京三菱銀行 赤羽支店 普通預金 1568210

特定非営利活動法人ロータリー日本財団理事 岩井 敏

免税(30万円以上の教育的分野への寄付、恒久基金と年次プログラム基金)の振込先

三井住友銀行 本店営業部 普通預金 8719834

名義 国際ロータリー日本事務局 日本ロータリー奨学金委員会

所長 大島四郎

10 万円未満の年次寄付と恒久基金寄付、並びに、金額にかかわらずクラブ寄付と地区寄付

東京三菱銀行本店普通預金 1528228

国際ロータリー日本事務局事務局長 大島四郎

または

三井住友銀行本店営業部普通預金 0968049

国際ロータリー日本事務局事務局長 大島四郎

参考文献:ロータリアン必携、手続要覧、管理委員会議事録、ロータリー財団章典 (ロータリー章典のほかに、ロータリー財団章典というものがありますが、現在、非公開です)

編集者	ロータリー財団地域コーディネーター	岡本 徳彌
	ロータリー財団地域コーディネーター	藤川 享胤
	ロータリー財団地域コーディネーター	宮崎 茂和
文責	RI 日本事務局財団室長	片岡 暎子

作成日 2004年6月29日